



ゴールボール

パラリンピック

視覚障がい者が男女別に1チーム3名でプレーします。攻撃するときには鈴入りのボールを投げてゴールを狙い、守備をするときはその音を頼りに全身を使ってゴールを守ります。音が大切なので静寂の中でプレーが行われます。

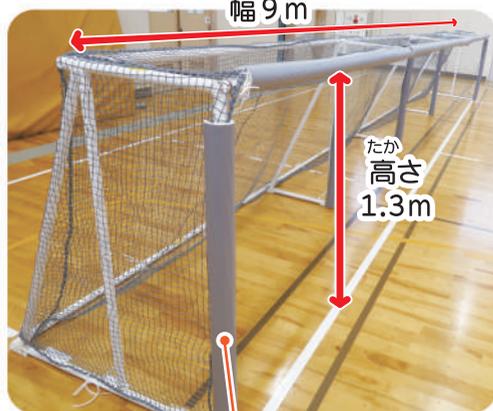


ルール

専用ボールを相手ゴール(高さ1.3m、幅9m)めがけて投球し、得点を競います。



中に鈴が入った1.25kgのボール



身体がぶつかってもケガをしないように柔らかい素材が付いている。

攻撃側が相手ゴールを狙ってボールを投げ、ボールがゴールラインを越えると1点が入ります。守備側は、ボールの転がる音や鈴の音を頼りに、転がる方向やスピードを判断し、身体を投げ出して全身を使ってセーブします。



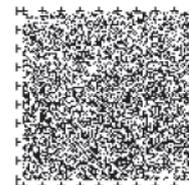
相手ゴールに向けて勢いよくボールを投げる。



手の先から足の先まで身体の全体を使ってセーブ。

競技時間

1試合は12分ハーフの合計24分間で行われ、前後半の間に3分間のハーフタイムがあります。同点で終了した場合、3分ハーフの延長戦(合計6分間)を行い、どちらかが得点した時点で勝敗が決まるゴールデンゴール方式を採用しています。延長戦でも決着がつかない場合は、1対1で投げ合うエクストラスローで決着をつけます。



ポイント 1

障がいの程度(視力や視野)によって競技力の差が出ないように、選手は完全に目隠しをして同じ条件でプレーします。アイシェードの下には、アイパッチを貼り、視覚情報を遮断します。



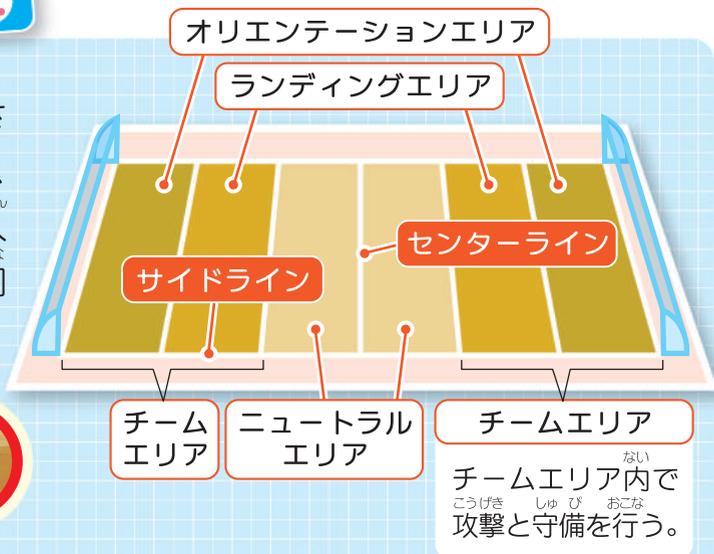
アイシェードを装着した選手



アイパッチを貼る様子

ポイント 2

コートは、18m×9mで、バレーボール(6人制)のコートと同じ広さです。



ライン下の糸



凹凸の感触を頼りに自分の位置を確認する選手。

知っておこう

攻撃時に投げたボールが「攻撃エリア」と「ニュートラルエリア」の両方の床でバウンドしなければ反則となります。



ハイボール

攻撃側チームエリア内でバウンドしなければ反則となる。

ロングボール

ニュートラルエリアでもバウンドしなければ反則となる。

反則があると相手チームにペナルティースローが与えられます。

ペナルティースローとは?

反則をしたチームが1人だけで守備をした状態で、相手チームに攻撃の機会が与えられることです。

その他の反則

ノイズ 攻撃側のチームは守備側に不利になるような音を出すと反則

10セカンズ 守備側の選手がボールに触れてから10秒以内に投げ返してセンターラインを越えなければ反則

ゴールボールは、もともと第二次世界大戦で目を負傷し、視力に障がいを受けた軍人のリハビリとして考案されたスポーツなんだよ。パラリンピックでは1976年のトロント大会より正式競技になったんだって。

ちょっと休憩

